

【高等学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立高志館高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな取り組みやPR活動を講じて生徒募集を行ったが十分な結果をだすことが出来なかったため、次年度も継続して学校の魅力発見・確認に努めるとともに、学校魅力の情報発信、通学しやすい環境整備、現代のニーズに合った学科編成の検討など生徒確保への取り組みを行い、「生徒が誇れる」、「保護者から信頼される」、「地域から必要とされる」そして「職員が勤務したい」学校づくりを引き続き行う。 ・全職員が「OneTeam」となり学校教育目標の実現に組織的に取り組み、農業の専門高校の特徴を活かした活動等を行い地域からも評価を得ている。また、コロナ禍の中、行事の精選や効率化を図りながらも生徒にとってより良い学校生活の構築に向け取り組んだ一年であった。また、3年生は、進路決定100%を達成し卒業することができた。
2 学校教育目標	校訓「高志深心」の理念(高い目標を持ち、目標達成に向け邁進する態度と深い心を育てる)を指針として訓育に努める。 ① 学業の充実・基礎学力の定着 ② 基本的生活習慣の確立 ③ 生徒会活動、農業クラブ活動、部活動、ボランティア活動の活性化 ④ 信頼される開かれた学校の推進 ⑤ 専門教科の教育内容及び施設・設備の充実

3 本年度の重点目標	スローガン「ステップアップ高志館」 ～マナーの向上と更なる成長を目指して～ ○生徒が高い志を持ち、自らの可能性を信じて更なる「成長」を目指すよう、授業と部活動の充実に努め、生徒が力を試す挑戦の場を多く準備する。 ○時代とともに技術は変化するが、身につけた精神は生き方を支えることを生徒に理解させ、さまざまな教育活動をおとして学力やマナーを含む、社会に貢献できる「人間力」を身につけさせる。 ○先が見えない時代にあっては、常に考え、課題を解決する「課題解決力」が備わっていることが必要であるとの認識を持ち、生徒に今は何をすべきかを常に考えさせ、責任を果たさせる中で自信を芽生えさせ、自立しようとする気持ちを育む。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力の向上 ○専門知識の理解向上 ○希望進路の実現	○基礎学力診断テストにおいて学習到達ゾーンがD2以上の生徒が90%以上にする。 ○日本農業技術検定3級合格者を50%以上にする。	○就職内定率100% ○就職試験1回目で内定する生徒90%以上 ○第一志望の大学・短大・専門学校への合格率100%	・朝の学びの時間にマナトレを使用して、中学校までの履きを復習させることで、基礎学力の定着と向上に繋げる。 ・専攻の授業や総合実習において事前と事後に理解度を確認する。 ・進学希望者に対する早期個別指導の実施 ・国立大学、公務員希望者への受験指導体制の確立 ・3年生対象進路学習会や一般常識テストの実施 ・専攻や総合実習時に対話を通して進路意識の向上を図る。						
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○道徳教育の全体計画に基づいて授業を行った教員95%以上 ○人権学習の実施前と実施後の心の変化調査	○いじめ0(ゼロ)を目指す。 ○学期はじめに面談を行い、いじめを受けている本人から教師に相談できる体制を整え、相談回数を増やし、早期解決へと導く。 ○いじめの定義を再学習後、いじめの認識を深めた生徒90%以上を目指す。	・人権講演会の実施 ・情報モラル教育及び人権教育を実施 ・生徒アンケート調査の実施 ・各学年で生徒に関する情報交換を実施し、いじめの予防、早期発見、早期対応に向けた取り組みを行う。 ・生徒とのコミュニケーションを密にとり、些細な変化も見逃さないように注意し、職員間で連携して対応に取り組む。 ・いじめの定義について再確認する授業後、自分や周囲の行動について振り返るワークシート記入を2回実施する。						○道徳教育推進教師 ○人権・同和教育担当者 ○教育情報化推進リーダー ○各学年主任 ○生徒指導主事 ○教育相談主任 ○各学年主任
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○体力の向上を実感した生徒の割合を75%以上にする。	●「健康に良い食事をしている」生徒98%以上 ○朝食をとって登校する生徒90%以上	・体育の授業でラジオ体操・ランニング・補強運動などの体力を向上させる運動を継続して実施する。 ・保健だよりの発行 ・食に関する意識調査の実施						○体育主任 ○保健主事 ○養護教諭 ○保健主事 ○養護教諭 ○体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○教職員のICTスキルの向上及び生徒の学習用PC活用の推進	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定(毎週月曜日) ・時間外が多い職員の業務分担の見直し ・部活動休養日の設定 ・部活動顧問の複数配置 ・学校閉庁日の設定 ・1人1台端末の活用率95%以上。 ・一人一台端末を使用し、Teamsを用いて資料を共有することでペーパーレス化に繋げる。 ・スクールニュースの有効活用						○管理職 ○教育情報化推進リーダー ○教務主任

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎SAGAコラボレーション・スクールを活用した魅力と活力ある学校づくり	◎魅力的な専門教育を通して各分野への興味・関心を深め明確な進路意識を育み、志を高める教育を目指す。	◎学年の枠を超えた授業を展開し、専門分野において先輩が後輩を指導する機会を設ける。 ◎教科横断型の授業を展開し、教科および科目の関連を意識させる。 ◎専門科目の学習に、興味・関心をもって取り組んだ生徒80%以上を目指す。	◎学年の枠を超えた授業を展開し、専門分野において先輩が後輩を指導する機会を設ける。 ◎教科横断型の授業を展開し、教科および科目の関連を意識させる。 ◎専門科目の学習に、興味・関心をもって取り組んだ生徒80%以上を目指す。	・実社会での専門知識の利用法など実になる学習の展開 ・地元の産業界等と連携し、外部講師による学習活動や技能講習会を実施するなど、より専門教育の学習内容を深める。						
★SAGAコラボレーション・スクールを活用した地域とともにある学校づくり	★特色ある専門教育を活かした地域課題解決型活動により地域への愛着を育む。 ★地元自治体や教育機関、業界団体などとの運営協議会を開催し、魅力ある学校づくりを推進する。	★地域の学校や団体と連携し、学校や地域の施設で、学校生産物の販売・接客等を行い、地域愛を育むとともに、実践教育による学力の向上を図る。 ★地元自治体や教育機関、業界団体などと連携し、地域の課題について研究活動を実施する。 ★将来、地域に貢献したいと思う生徒80%以上を目指す。	★地域の学校や団体と連携し、学校や地域の施設で、学校生産物の販売・接客等を行い、地域愛を育むとともに、実践教育による学力の向上を図る。 ★地元自治体や教育機関、業界団体などと連携し、地域の課題について研究活動を実施する。 ★将来、地域に貢献したいと思う生徒80%以上を目指す。	・地域施設での学校生産物販売会の運営 ・害獣対策として、大学と連携し、害獣肉を利用した肉加工実習を継続して行う。 ・近隣施設との連携事業の展開 ・幼、小、中、特別支援学校等にて出前授業等の実施。						○研究部主任 ○農場長 ○教務主任 ○各学科主任 ○各学年主任

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり
----------------	---